

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経済学部 2年 和氣由布子

2週間という短い期間でしたが、私にとってこのプログラムは初めての海外での学習経験でした。私が配属されたクラスは本プログラムの予定していた企画との時間の重なりが無かったため、授業と企画全てに参加し無駄の無い時間を過ごすことができました。学習、海外での体験、中国における日本製品や企業、わたし自身の将来への展望の4つの点から振り返ります。

授業は語法・口語・リスニング・読解の4種類で、日本と同じく授業時間は90分です。当然ですが全て中国語と英語で進められるため、全てリスニングの訓練にも感じました。様々な国からの留学生がいるクラスに滞在して感じた事は、日本における実践学習の弱さです。授業中に「汉字比听力难（漢字は聞き取りより難しい）」という例文が出されたのですが、日本人は母語として漢字を使用しているため簡体字はそれほど困難に感じませんでした。他の留学生に比べて聞き取りの力が劣っている事は何度も痛感しました。授業はペアワーク形式で行われることが多く、積極的に隣の席の人と交流することで授業を通じて友人を作ることもできました。長期的な留学は今後の視野には入れていませんが、短期のプログラムでまた学ぶ機会がある時は積極的に参加したいと思いました。

初日に痛感させられた日本と中国の違いは、電圧です。日本では110Vが一般的ですが中国では220Vが用いられているため、日本の電化製品の使用には変圧器が必要です。私は電圧気を忘れていたためドライヤーが利用できませんでした。欧米などの電圧も日本より高いため、日本では電圧を上げる変圧器が主流ですが海外では下げるためのものが主流で、目当ての物は手に入りませんでした。授業が日本よりも早い8時から開始されることも興味深く感じました。中国人寮生は寮の消灯時間が11時30分に定められており、早朝からの授業に備えて効率の良い睡眠をとるそうです。食についても、ウシガエルや豚足など日本ではあまり食べる機会のないものを経験することができました。基本的に辛めで脂っこい味付けのため渡航前は体調を崩さないか心配でしたが、2週間元気に過ごすことができたことには自分でも驚きです。

今回の旅の目標の一つとして中国に進出している日本製品や企業のマーケティングを覗いてくることを掲げていました。一番目に見えて感じたことは日本最大手のコンビニであるセブンイレブンの数が少なく、ファミリーマートが「全家」という現地名で浸透し入っていたことです。並ぶ商品も日本と異なり、おにぎりが少ないことや変わった味付けの菓子パンが多いこと、ミネラルウォーターが豊富なことが特徴的でした。コンビニ以外でも化粧品や下着メーカーなどをよく目にしましたが、これらは日本国内の価格の1.5~2倍ほどの価格で販売されており日本の製品の質の高さを実感しました。

俳句を学んでいたこともあり、私は日本の文化が大好きです。その分国内志向もあり、海外に積極的に訪れたのは今回が初めてでした。地下鉄の券売機で紙幣が使用できないことが多々あったりタクシーが制限速度を守らなかったり、交通が混乱していたり、中国の未整備な状況から目を反らすことはできません。しかし先ほど述べたように日本企業の進出も進み、現地で出会った人たちの話を聞くと服や身の回りの品など日本製品を愛用している人は多く、無視のできない巨大なマーケットです。中国語を学びに訪れている欧米人の多さからも実感しました。今も現地で学んでいるクラスメイト達に劣らないように帰国後も中国語の勉強を続け、日本経済の発展の一助になりたいと思います。

お茶の産地である龍井やお酒で有名な紹興、上海や蘇州など、様々な地域に観光に行くこともでき中国文化の知識も増やすことができました。上海万博跡地にて清明上河図を見た時の感動は今でも覚えています。中国語を学ぶ過程で寧波や黄山など今回訪れることができなかった場所を訪れ、実践しつつ努力します。